府立狭山高等学校

学校経営推進費　評価報告書（２年目）

標記について、下記のとおり提出します。

１．事業計画の概要

実施課程名	普通科全日制課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	年間読書冊数の増加 授業アンケートと学校教育自己診断における生徒の【授業満足度】や、学校教育自己診断における【カリキュラム満足度】などの向上
計画名	さやまアクティブ・ライブラリ　～読書活動の推進が、「狭山生を、自ら学び行動する生徒」へと育成する～

２．事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の中期的目標	１　さらなる学力の向上及び進路の保証 (1)　生徒が主体的に学べる充実した授業の実現に取り組む。 (2)　個々の進路希望を実現する新カリキュラムによる学習指導を進め、家庭学習指導、個別指導の充実を図ることにより、進路の保証に結びつける。 ２　キャリア教育のための環境づくり (1)　自立・自律した人間として、将来の生き方を考えることができるプログラムを展開する。 エ　読書活動を推進する。
事業目標	・本を身近なものとして、読書活動を習慣づける。 ・読書活動を本校の教育活動の中心であるアクティブラーニングと接続させ、課題を主体的に解決する力をいっそう向上させる。 ・ICTの活用によるデジタル情報の送受信は言うまでもなく、読書活動を通じてアナログな資料批判の力をつけることによって、どのような場面でも自分の意見を持ち、説得力のある自己表現を可能とする。 ・上記の取組みにより、(1)平成27年度に比して平成30年度には学校教育自己診断における生徒の【授業満足度】を75%に、【カリキュラム満足度】の75%超えをめざす。(2)授業(総合的な学習の時間を含む）での学校図書館の利用率を上げる。(3)図書資料の年間貸し出し冊数を2900冊以上にする。 (平成26年度879冊、27年度1451冊)
整備した設備・物品	・ブックトラック(30台／各教室及び図書室)　・大判プリンター(１台／司書室) ・調べ学習に使える一次資料の購入　・推薦図書ブックレット発行(1000部)
取組みの主担・実施者	主担：さやまアクティブ・ライブラリチーム(略称：sal　継続的な進化を象徴する) 取組みの実施者：チームさやま（狭山高校全教職員） 協力：大阪府立中央図書館、大阪狭山市立図書館、狭山池博物館
本年度の取組内容	・学校図書館の運営に図書委員を参画させ、生徒の主体的なキャリア意識の形成を促す。 ・各教科の授業において、図書資料を活用した協同学習、能動学習を展開し、自ら考え、表現する力の育成を図る。 ・読書する習慣を定着させると同時に、マイメモリを読書活動の成果として生徒の読書活動にフィードバックする。 ・プレゼンテーション能力と傾聴力の涵養のため、ビブリオバトル大会を実施、校内勝ち抜きチャンプ本を決定する。 ・大阪狭山市立図書館との連携を強化し、互いの施設、人的資源の利用を図る。 ・百人一首大会、英語暗唱大会の実施。 ・図書館通信（クープ）を継続的に発行し、図書委員をクラスの読者活動の牽引者に育てる。 ・修学旅行先の沖縄について調べ学習を行い、その発表に大型プリンタを活用する。 ・外部講師による生徒向け講演会に大型プリンタを活用する。
成果の検証方法と評価指標	・年間貸し出し冊数が1281冊にとどまった。 ・生徒の授業アンケートにおける「授業に、興味・関心を持つことができたと感じている。」「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」が3.15であった（昨年度平均3.16、一昨年度3.12） ・学校教育自己診断の結果、【授業満足度】78.6%（前年度77.6%、一昨年度69.9%）
自己評価	初年度に整えられた設備を活用し、読書活動を日常化させた。各教室、職員室、保健室、食堂などに配置したブックトラックには、各所に適した内容の本を置き、本と出合うきっかけを増やすことができた。（〇）ただし、身近にあるブックトラックから資料を見ることが可能となったため、貸し出し冊数がむしろ低下してしまった。（△）今後の課題である。校内研修として、ホワイトボードを用いたファシリテーションの研修を行い、読書活動を個人から集団へと発展させられるような教職員への意識作りとスキルアップを図った。（〇）図書室を利用、もしくは図書資料を活用した授業については、時間的な余裕がない中つつも、若干の増加があった。（△）ビブリオバトルについては、クラスを勝ち抜いたチャンプ本の決戦を近隣のホールで行い、大阪決戦にも出場することができ、昨年同様に入賞を果たした。（◎）教職員によるおすすめ本については、昨年度末の発行となったため、今年度の読書活動に活用した。紹介された96冊のうち、入手可能な図書資料については、職員室前にブックトラックを設置し、推薦教職員の名前とともに紹介し、貸し出しを容易にした。（〇）授業アンケートにおける結果は、残念ながら昨年度を上回ることができなかったが、授業満足度は増加した。（△）
次年度に向けて	最終年度となる次年度には、読書活動の推進を本校だけのものではなく、外部と連携したものとして発展させていきたい。地域の社会教育施設や学校と連携し、読書活動を通じてキャリア意識の形成を図りたい。図書室のアウトリーチとしてのブックトラック配置については、それぞれのHRの生徒や教員の特性を踏まえた選書を行なうことで、より図書資料へ用意にアクセスできるように工夫したい。貸出冊数については、マイメモリーの活用を含めて活性化を図り、タイムマネジメントを考慮して家庭での読書活動の時間をどうつくるかを検討することで、落ち込んだ冊数の回復と増加を図りたい。ビブリオバトルは本校の取組として定着したが、百人一首やコーラスコンクール、英語暗唱大会といったイベントについても、読書活動を活用してより深い学びを実践できるよう、教職員のスキルを上げる。